

オープン市場短信 (2005年7月)

2005.7.07

6月のCP市場動向

6月のCPの新規発行は約4兆2,000億円と期落ち(約3兆円)を大幅に上回った。月初から、法人税の納付資金や賞与資金手当ての発行と思われる案件が多く、連日期落ち以上の新規発行が続いた。

手形CPから電子CPへの切替えはスタート前の想定(6月末で振替規模15兆円前後)を上回る速さで進んだ。6月末現在の電子CP発行残高は18兆2,980.81億円(前月比約4兆5,5534億円増)となっており、6月末時点で国内CPの90%以上が電子CPに切替わったと推察できる。このように電子CPが大幅に増加した要因としては、金融機関発行手形CPの切替えが進んだこと。同様に6月中に期日ロールした手形ABCPが短期外債に切り替わったこと。企業の資金調達ニーズと運用難に悩む投資家のニーズが合致し、転売が順調に進んだことなどが挙げられる。6月末以降は電子CPの残高が日銀が公表するCP残高(手形CP+電子CP)よりも多くなってしまうが、これは日銀集計の数字には企業が投資家や短資会社にダイレクト発行したものが含まれていないことによる。

6月の発行企業数は合計で248社、うち新規発行企業数は25社であった。6月末時点の発行登録企業数は341社で、既発行企業は約78%に当たる266社になった。また、発行企業の上位10社中、一般事法は日産自動車1社、リース会社2社、金融機関2社、SPC(短期外債の発行)が5社となっている。1千億円以上の発行残高を残した企業は52社あった。

発行レートは一般銘柄では大量発行にもかかわらず、ディーラーや投資家のニーズが強いことから、ほぼ横ばい圏内での動き。一方、ノンバンク・リース銘柄では、投資家の運用姿勢が慎重なためかやや強含みとなって、一般銘柄との銘柄間格差が生じる状況となっていた。

銘柄別の発行レート

【最上位格付け銘柄】0.003~0.01%台前半。

【オペ適格銘柄(a-1)】0.006~0.015%前後。

【ノンバンク・リース会社】a-1+銘柄 0.002%~0.01%台前半。

a-1銘柄(オペ適格)0.01%台~0.06%台。

【a-2格銘柄】0.01%台前半~0.20%近辺。

CP オペ

ABCP買切りオペは今月も2回オファー(8日・22日)され、オファー金額はいずれも1,000億円であった。8日オファーのオペは、過去最低の応札額28億円(応札ディー

ラー1社)にとどまり、22日オファー分は応札額こそ増えたが、応札ディーラーは3社であった。毎月2回のペースで買い切りオペが行われてはいるが、その実施日がやや不規則なことや投資家ニーズも強いことから、ディーラーサイドでは仕入れた玉を即転売するケースが多かった。このため、オペの札割れが続く結果となっている。

CP 現先オペは、月中4回の期日ロールが行われた。各回とも、大量発行を受けてオペ対応玉が充分にあったことから、足切レートは0.002~0.003%、平均落札レート0.003~0.004%となって前月のオペレートよりも上昇した。

5月末のCPオペ残高

ABCP 買い切りオペ 481億円

CP 現先オペ 2兆6,049億円

(内資産担保 CP334億円/短期社債・短期外債 1兆8,390億円/資産担保短期債券 5,165億円)

ABCP

6月末のABCPの発行残高は、約5兆4千億円と前月比約2,000億円増加したものの、前年比ではマイナスとなっており企業の債券流動化ニーズは依然低調なままである。

現先市場

月中現先レートは、0.004~0.008%のレンジでの出会い。

7月のCP市場動向

7月中のCP償還は約3兆4,500億円と、前年同月(3兆3,200億円)よりやや増加している。電子CPもすっかり定着しており、前年7月の発行実績(3兆2,500億円)から勘案すると3兆3,000億円前後の発行が見込まれる。

発行レートは、一般銘柄では期越物のレートが期内物に接近する方向で低下が進むと思われるが、ノンバンク・リース銘柄ではディーラー・投資家の運用姿勢が慎重なため、レートはほぼ横這いで推移すると思われる。

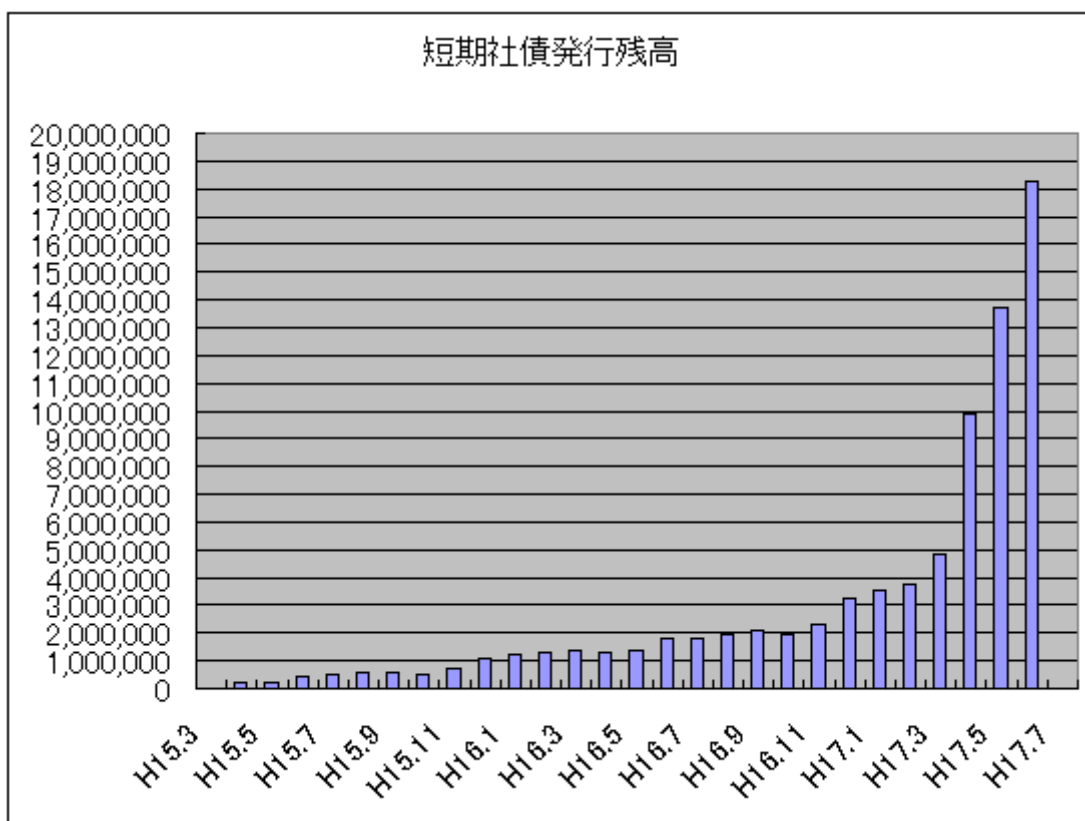
CPオペ

ABCP 買い切りオペは、ディーラーの適格ABCP保有状況を勘案したうえで、1~2回実施されるだろう。現先オペについては、今月も4回の期日が到来する。先月よりは発行も減り、相変わらず投資家ニーズも強いことから転売が進み、ディーラーの適格玉保有も減少して足切レートは低下するだろう。また、手形CPの大部分が電子CPに切替わっていることから、日銀のオペが電子CPのみのオファーとなる日も近いのではないかと。

現先市場

月中現先レートは、T/N・S/N とともに 0.003~0.007%、ターム物で 0.005~0.008%近辺での出合いを予想。

短期社債月末残高 (H15年3月~H17年6月)



参考出所 (株)証券保管振替機構

(松倉)